

平成29-30年度

令和元年10月9日

県立広島大学研究開発助成事業 報告会

「西国街道沿いの歴史的な市街地における歴史的建築物把握調査  
—三原城下町の保全から、  
地域の魅力を高める—」

県立広島大学 吉田倫子

## 調査研究の目的

- 築城450年、城郭だけでなく、城下町にも魅力がある。
- まだまだ残された資源があるのではないか。  
(景観づくり、観光の資源、  
都市形成の歴史を学習に役立つ?！)



- 歴史的な建物や工作物が、どこに、どのくらい、残っているかを把握する。
- それら地域資源をどう活用するかを考える。
- 本町、そして三原のまちづくりを考える。

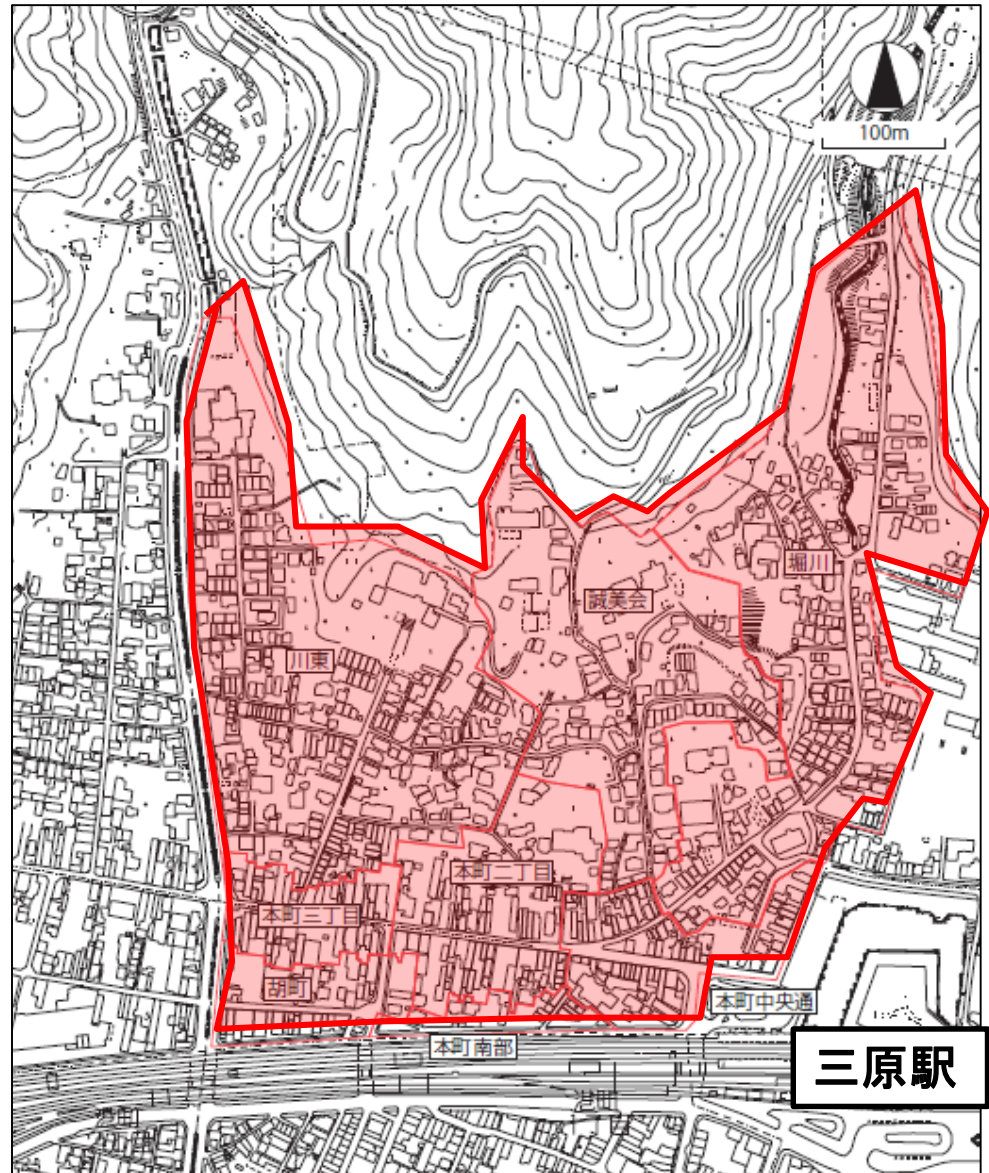
# 研究の対象地区

西国街道を中心  
とした

三原城城下町



三原市本町全域



# 研究の内容

## 調査① 歴史的建築物 & 環境物件悉皆調査

調査範囲全域にある歴史的建築物 & 環境物件を抽出する。

- ・戦前の建築物
- ・樹木等や石造等の人工物

## 調査② 建築調査

歴史的建築物悉皆調査から重要な建物を抽出(歴史的な要素をのこしたもの)し、実測調査

調査数: 5件

## 調査③ 景観調査

主要な視点場を選定し、写真撮影等により景観を把握し、分析を行う。

視点場: 17ヶ所(西国街道入口, 妙正寺など)

内容: 写真撮影, アクセシ性, 遮蔽物, 視野の特徴など把握

# 歴史的建築物等の 分布状況(調査①)





# 歴史的建築物(町家)の例

40	写真：建物外観(上)，		詳細 (下)		
建築物の概要及び外観の特徴					
階数	棟方向	屋根形状	材料		
2	平	切妻	桧		
1階建具	2階建具	1階外壁	2階外壁		
出格子	出格子	漆喰(墨)	漆喰(墨)		
外観実測数値					
建物間口	開口部	軒高	棟高	下屋の出	軒の出
8022mm	7143mm	—mm	—mm	1066mm	—mm





長屋の例①



長屋の例②



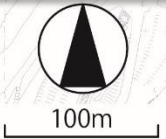
屋敷の例①



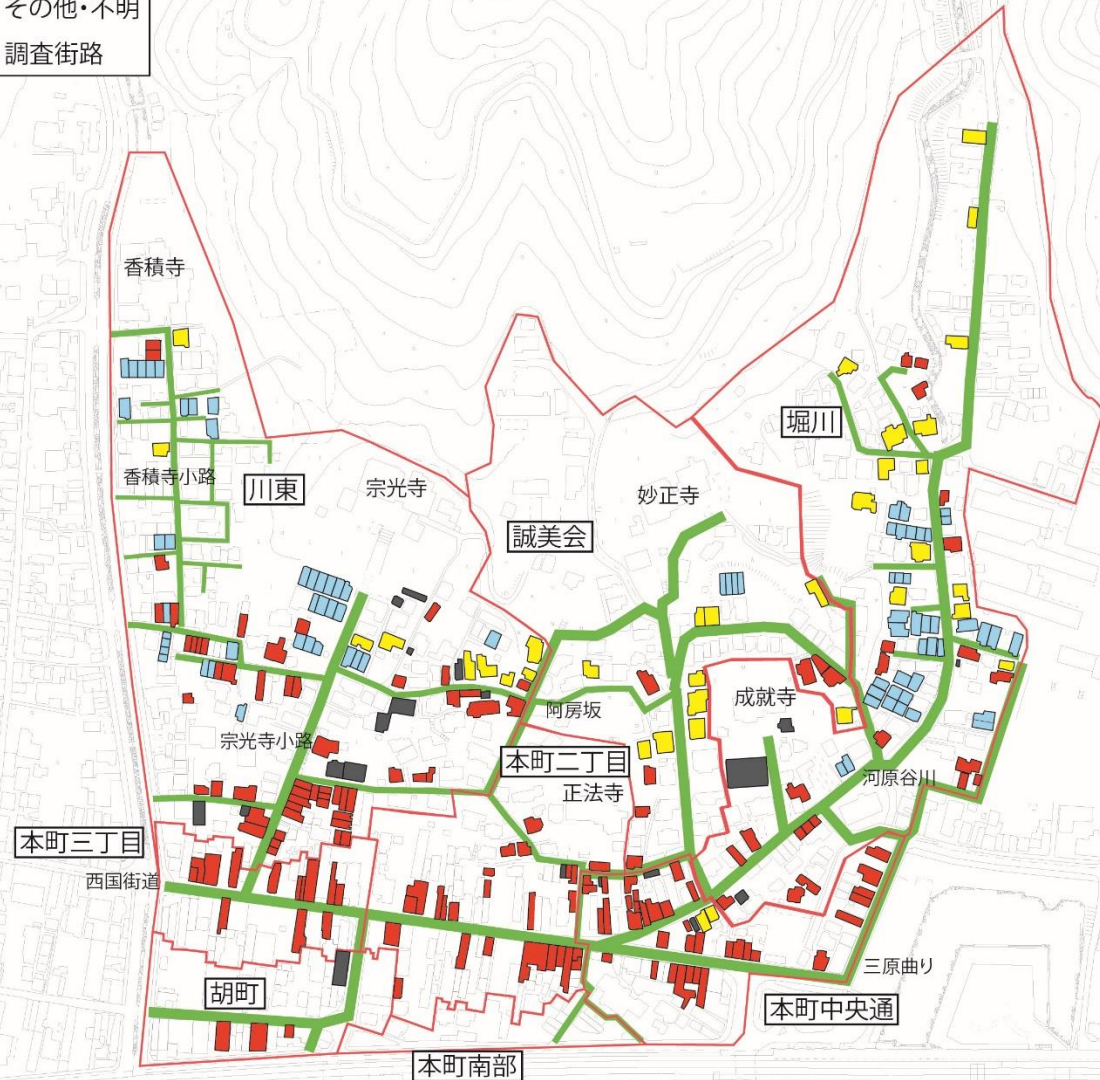
屋敷の例②



## 歴史的建築物 の件数と分布



種別	件数
<span style="color: red;">■</span> 町家	147件
<span style="color: blue;">■</span> 長屋	76件
<span style="color: yellow;">■</span> 屋敷	36件
<span style="color: black;">■</span> その他	11件
<span style="color: black;">■</span> 不明	6件
合計	276件





# 工作物・環境物件の例(調査票より抜粋)

名称・特徴		種別	
石階段 33段		石階段	
		材料	
		石	
地区	幅	奥行	高さ
誠美会	3024mm	—mm	—mm



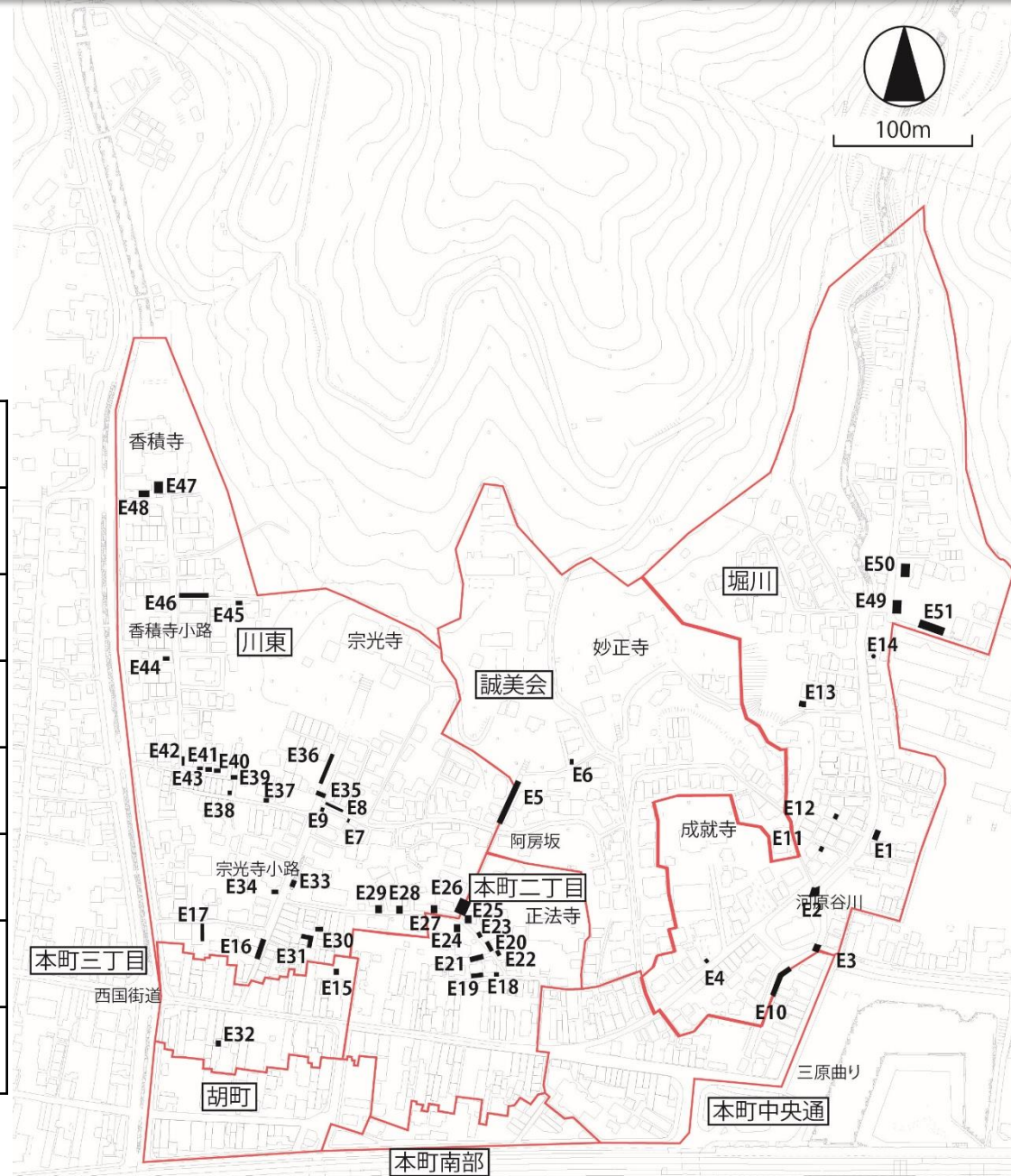
名称・特徴		種別	
河原谷川石垣		石垣	
		材料	
		石	
地区	幅	奥行	高さ
堀川	—mm	—mm	—mm



# 歴史的建築物等の分布状況

## 工作物・ 環境物件の 件数・分布

種別	件数	種別	件数
石垣	10件	樹木	4件
門	10件	橋	3件
井戸	9件	石階段	3件
塀	8件	水路	3件
祠	4件	基礎	1件
石造物	4件	鳥居	1件
地蔵	4件	<b>合計</b>	<b>64件</b>





# 歴史的建築物等の特徴 (調査②)





## ◆町家の特徴

- 街道沿いの町家の多くで、軒先が切りそろえられている。
- 地割は、城下町だった当時のもの残されている。
- 外観は、切妻屋根平入り1階部分に下屋をもつ2階建てのものが多い。棧瓦葺が多い。
- 間口は、2軒半から3軒と比較的間口が狭い物件が多いが、奥行きは非常に深い。
- 間口が広く棟高も高い大規模な町家もいくつか残っている。
- 1階に出格子がつくものや2階に虫籠窓のあるものがある。ただ、数は少ない。

## A邸

- 建築年代は不明であるが、**明治期もしくはそれ以前に建築**。
- 間口2軒半，奥行き不明，切妻平入二階建て棧瓦葺。
- **もとは、造酒屋**で両隣をあわせて一つの建物であったと言われている。現在，左隣は解体され，右隣は改修されている。
- 現在は，棧瓦葺。以前は，本瓦葺。二階屋根は出桁をもつ。
- **虫籠窓風の小窓**がつく。**登り梁**が使われている。
- 一階の左側に土間が通り，みせ部分の奥に三室の和室がある。主屋奥には庭があり，石組みの井戸も残っている。
- 二階には，切妻の**大屋根を支える小屋組**が，そのままの形状が残されており，**巨大な梁や桁，小屋束や貫**が見える。
- 一階は，概ね改修されているが，建物の構造物自体は，**建築当時のまま残っている**。

## B邸

- 町家。建築年代は、**大正期**。
- 重厚な作りの間口13m**大規模な切妻屋根平入二階建**。
- 二階は、**格子のつく窓**あり、壁は、**黒漆喰塗り**である。うだつと**袖壁**が両側についている。二階庇は、**土蔵**のように漆喰で塗籠られ段差がついている。
- 二階は、**大規模な和室**が残っており、縁側もある。縁側の梁には、**化粧丸太**が使われている。
- 二階には、切妻の大屋根を支える小屋組が、残されており、**巨大な梁や桁、小屋束や貫**を見ることができる。



## ◆屋敷の特徴

- 山裾の社寺群の参道沿いに大規模な屋敷が今も多く残されている。
- 旧藩邸や豪商の所有物だった屋敷などがある。
- 入り母屋，寄棟の屋根が多い。
- 壁は，白色と炭色の漆喰塗が混じり，腰部分には焼き板は貼られている。
- 床の間には，絞りの化粧丸太の床柱。雛壇（畳敷きの床の間），書院や違い棚のつくものもある。
- 縁側（濡縁）には，磨き丸太の梁や桁。
- 門，土塀，庭園（池，灯籠），母屋，付属屋，土蔵で構成されている。庭園には，巨木があるものもある。
- 水路の蓋には，石敷き。

# C邸

- 宗光寺の参道沿いにたつ庭園を持つ屋敷建築。
- 江戸期の三原藩の別宅として建築。大正期に現在の形態。
- 主屋は、木造二階建て棧瓦葺の入り母屋屋根。一階部分は、縁側に下屋根がかかる二重の屋根になっている。
- 壁は、白色と炭色の漆喰塗が混じり、腰部分には焼き板。
- 屋敷周辺には、本瓦をのせた、反りのある最大壁厚が700mmもある重厚な白漆喰塗りの土塀のこる。
- 庭園には、敷石、巨石、池、石組みの井戸、石灯籠(6基)、手水鉢、植栽、苔、幹周り3mの巨木(ホウの木)

## D邸

- 宗光寺の参道沿いにたつ**屋敷建築**。建築年代は、**大正期**。
- 木造二階建て寄棟屋根棧瓦葺。蔵、棧瓦葺の板塀がある。
- 一階は、四畳半の和室、六帖と十帖の床の間と違い棚や書院のつく和室がある。
- 縁側の梁や桁は化粧丸太が使われ、化粧丸太の垂木が使われ数寄屋風の作りである。**長尺の一枚板の床板組み**。
- 屋敷の和室全体に面取りされた柱が使われ、材木商を営んでいたと言われており、贅沢な材木を数多く使用されている。



# E邸

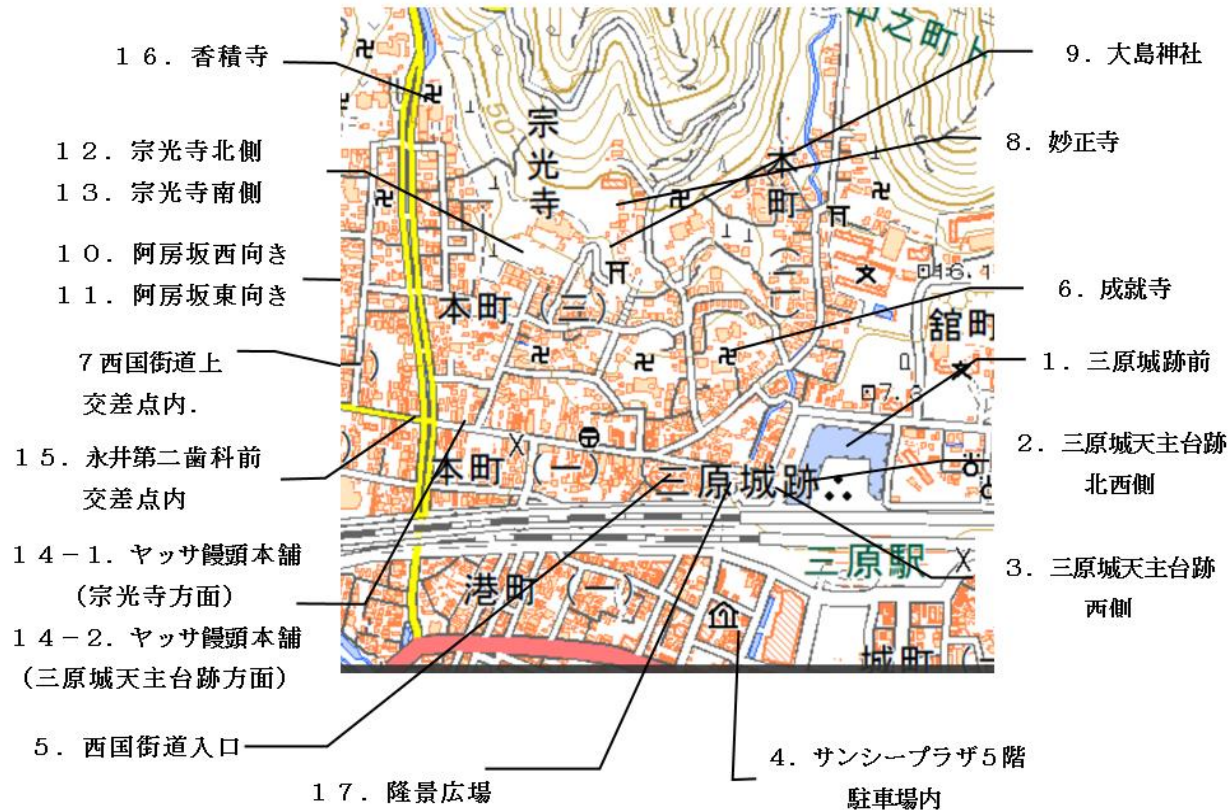
- 旧山陽道沿いの蔵のある屋敷建築。大正期に建てられたと考えられる。一層分の高さの石垣積みの上に屋敷が建っている。
- 木造二階建て入り母屋屋根棧瓦葺き。一階屋根は、寄棟棧瓦葺。棧瓦葺の板塀がある。
- 主屋の外壁は、漆喰仕上げ腰に焼き杉板貼り。
- 縁側は、桁や梁は化粧丸太が使われ、化粧丸太の垂木が使われ数寄屋風の作りである。

# 工作物及び環境物件の特徴



## 本町の景観の特徴(調査③)

図. 視点場の分析対象とした17箇所の位置図  
(引用：国土地理院の電子地形図を掲載)





# 景観の特徴（視点場：大島神社）

屋根瓦の色が目につき、  
赤の鳥居が映えない

電線が目につき  
やすい



樹木が視野を狭  
めている

# 景観の特徴（視点場：三原城天主台跡）

西国街道が隠れる

山のスカイライン  
を切る





# 景観の特徴（視点場：西国街道西端）

電柱・電線が目につきやすい



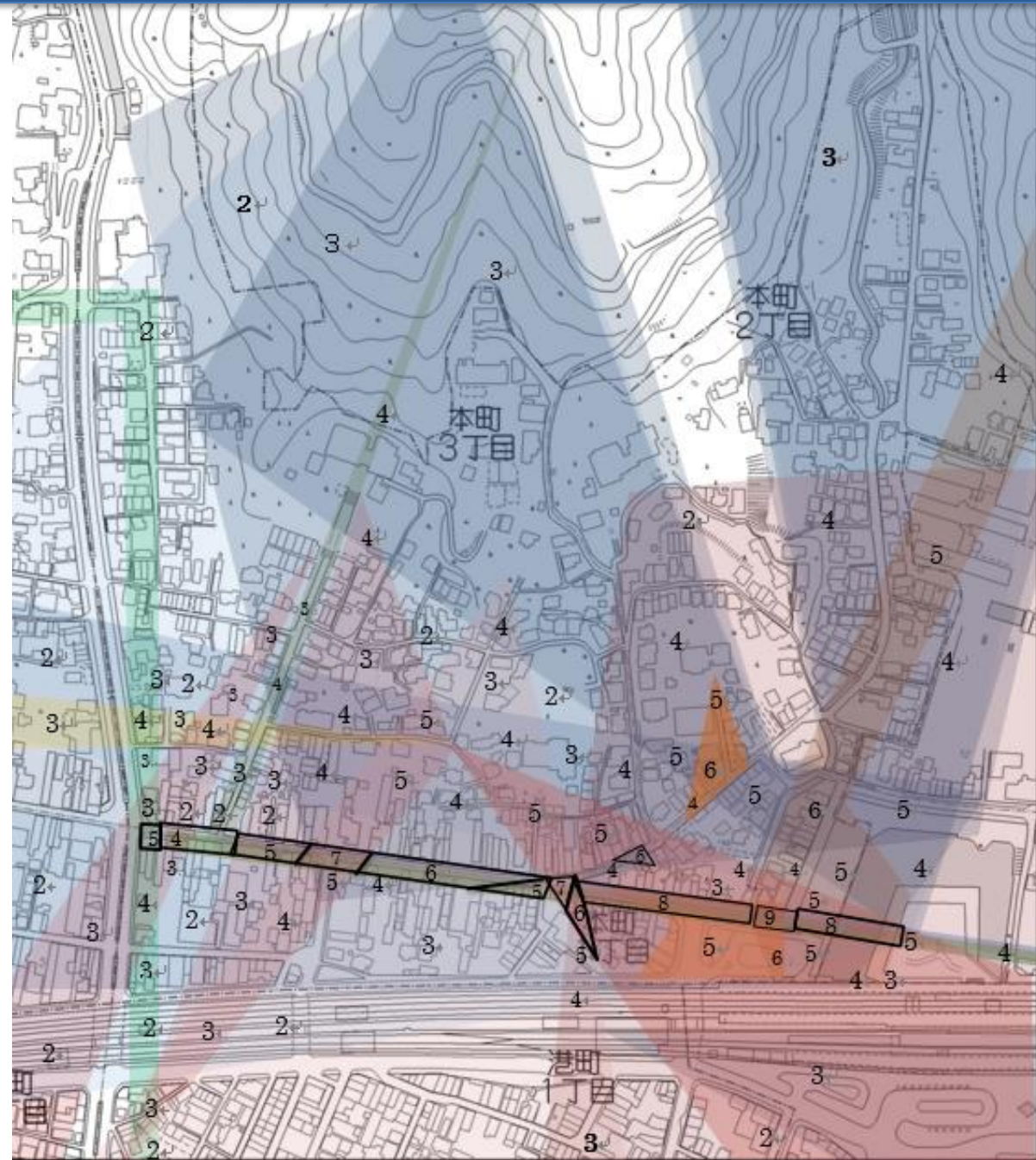
看板建築

歩道が狭い

セットバックして  
改築済み

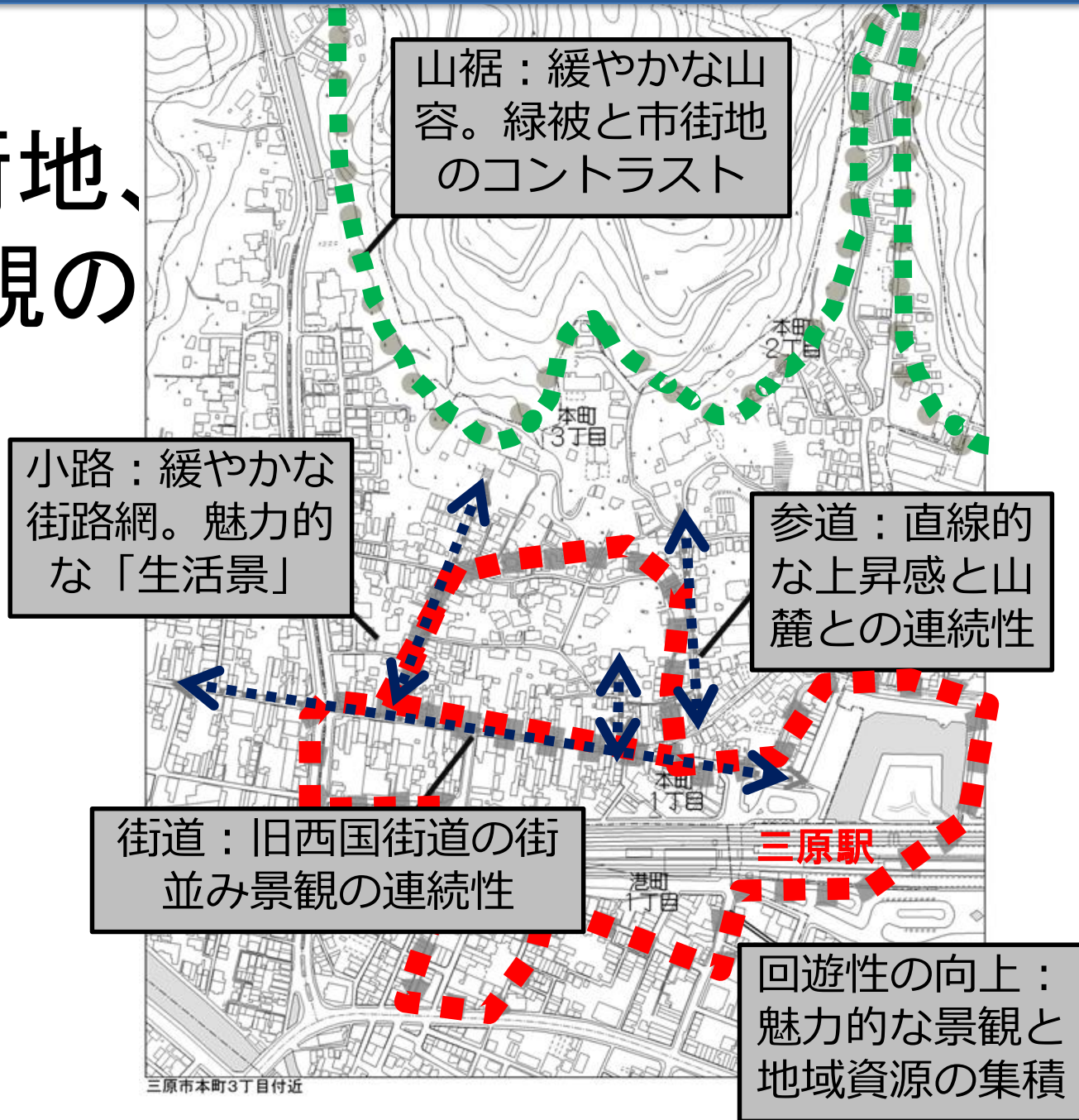
## 見られ頻度

- 17箇所視点場から見られた頻度





## 三原の市街地、 本町の景観の 特色



山裾：緩やかな山容。緑被と市街地のコントラスト

小路：緩やかな街路網。魅力的な「生活景」

参道：直線的な上昇感と山麓との連続性

街道：旧西国街道の街並み景観の連続性

回遊性の向上：魅力的な景観と地域資源の集積

三原市本町3丁目付近

# 三原の市街地、本町の 景観を活かす

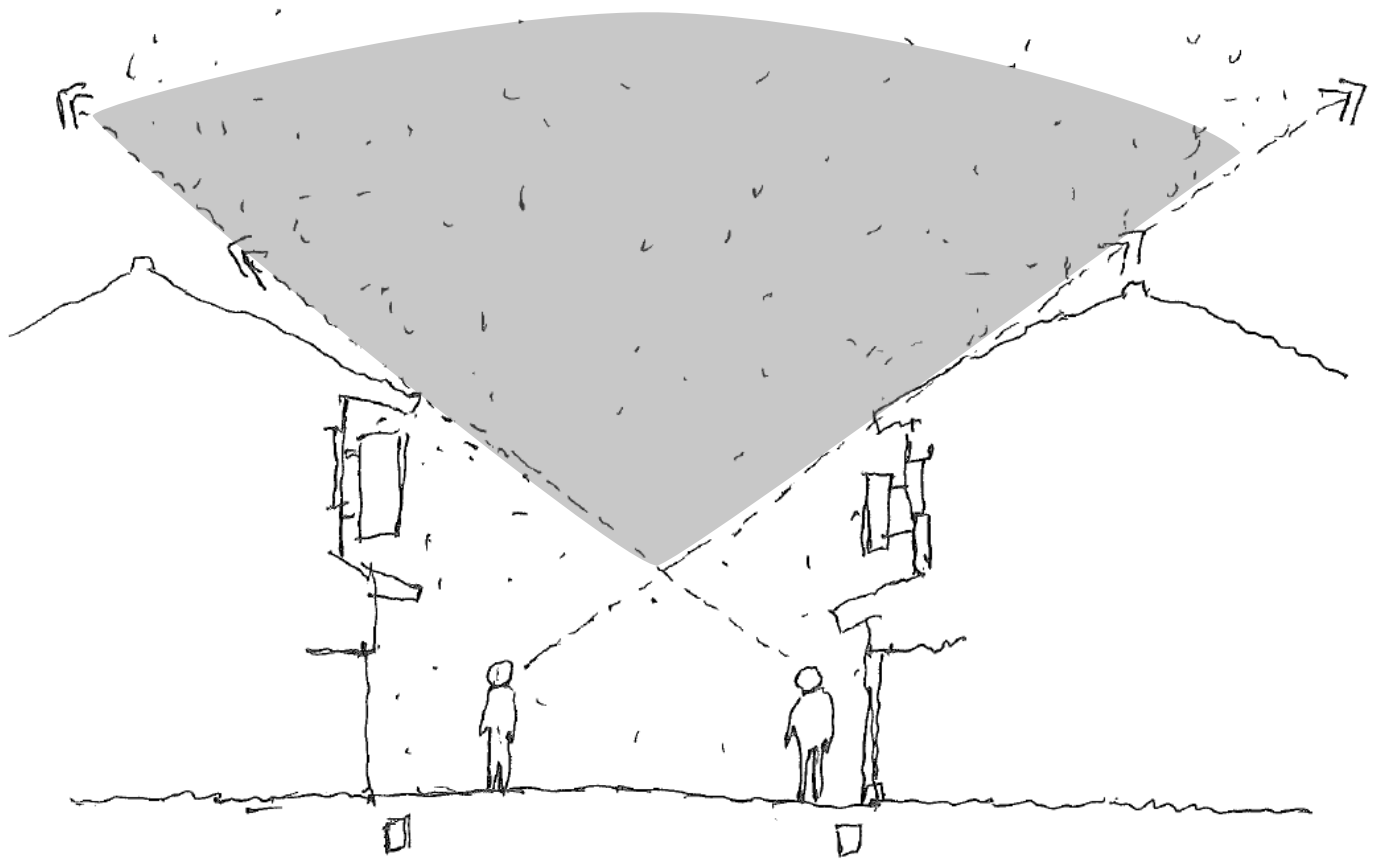
## ポイント&ビジョン

# 【ポイント1】 街と山並み、海を繋ぐ空間の大切さ



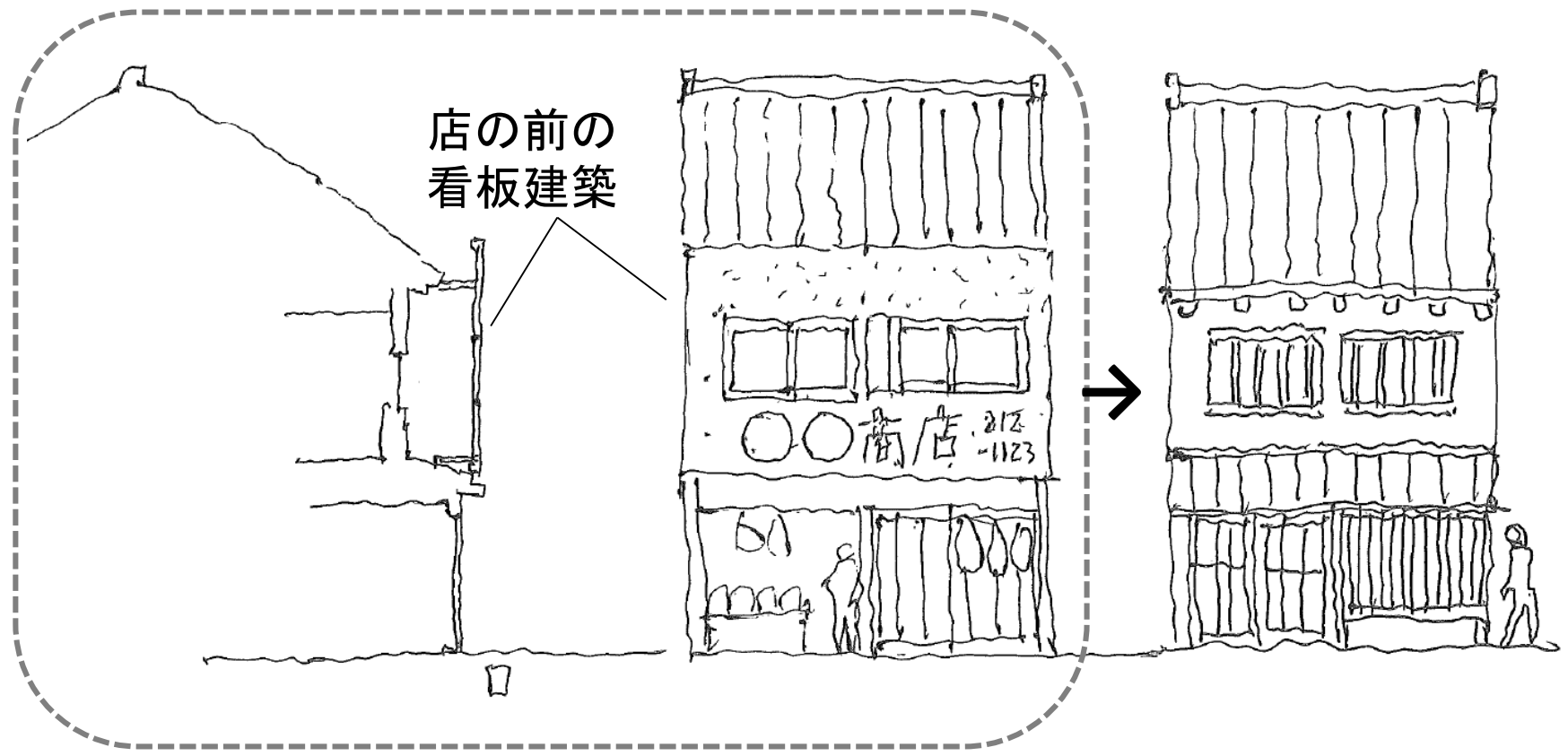
# 【ポイント2】

## 視界の広がりと抜けの大切さ



# 【ポイント3】

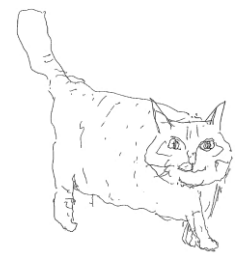
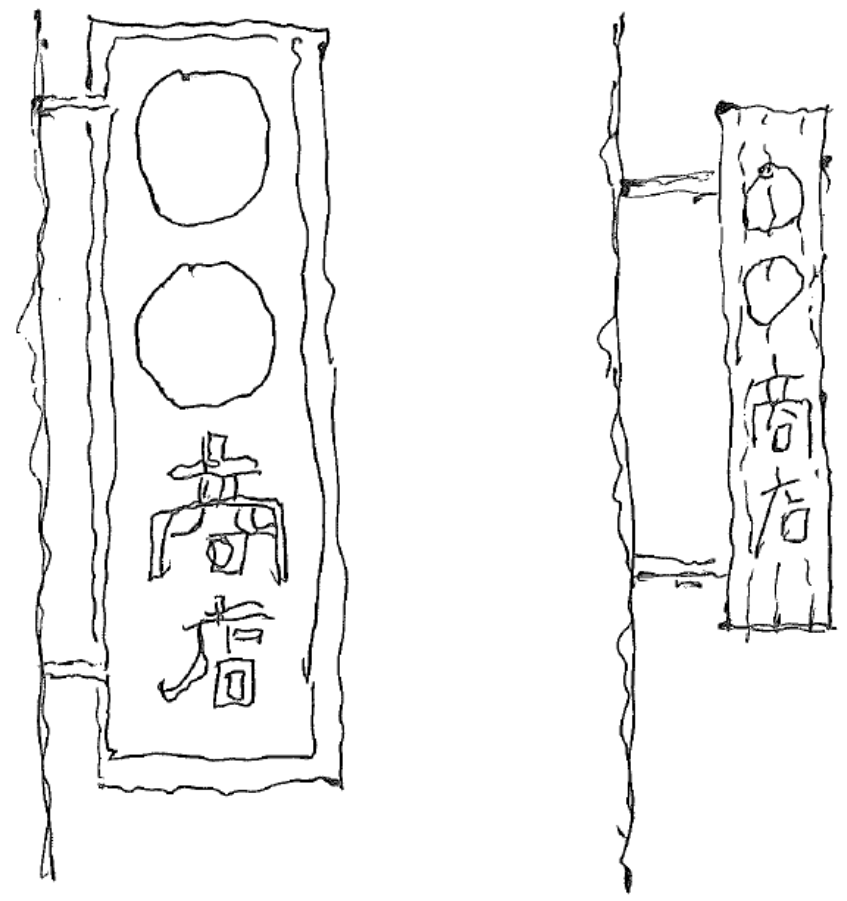
## 三原、本町の栄華と看板建築





# 【ポイント4】

わが街にふさわしい、  
「色、形、材質」+「大きさ」



# 三原と本町の景観のこれから： 築城500年のビジョン

『三原らしさを表す

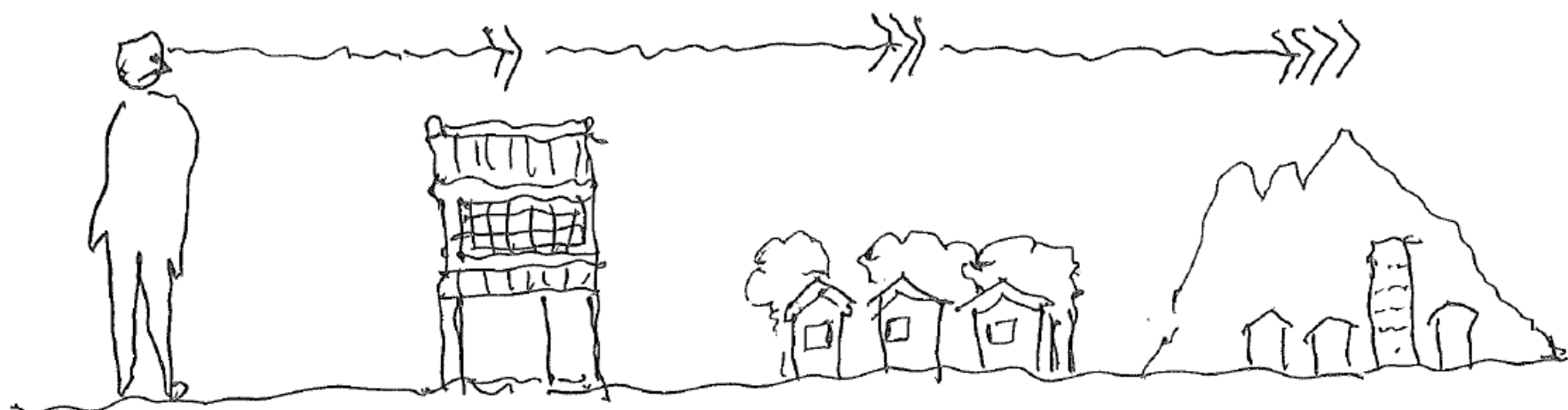
面（地区）

線（街路、街並み）

点（単体建築物）

を育むこと』

# 【ビジョン1】 景観と距離の考え方



近景

中景

遠景

材質  
細部

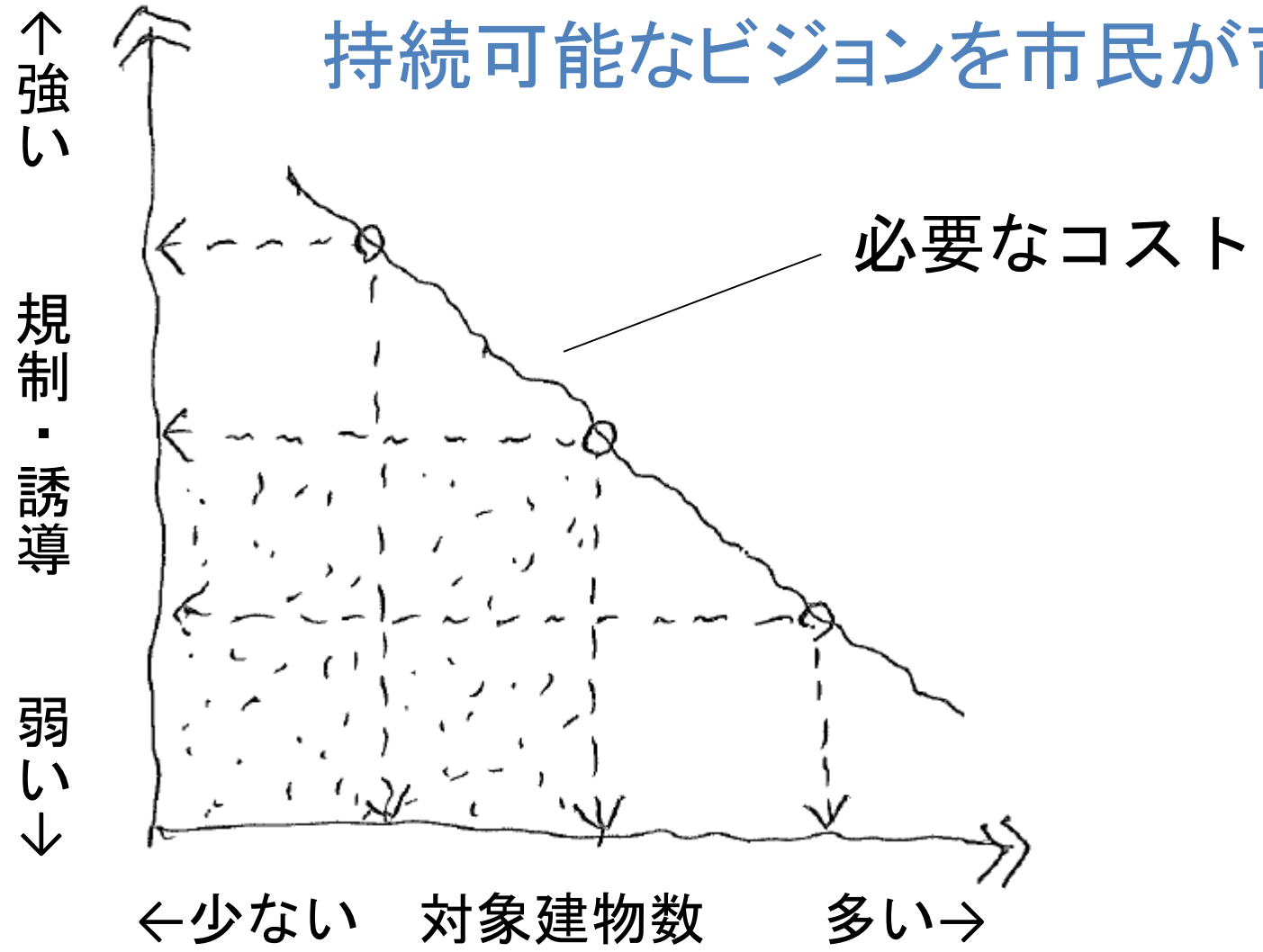
色彩  
構成

大きさ  
形

# 【ビジョン2】

## 総合的な「コスト」の考え方

持続可能なビジョンを市民が育むこと





# 【ビジョン3】

## 点

## 線

## 面

対象の  
選定、  
規制と  
誘導の  
考え方



個別の建物



街路・町並み



界限・地区

少しの建物に  
集中的に

規制と誘導

多くの建物に  
まんべんなく

- 事業の目標、街の将来像？
- 景観形成の合意形成、財源、事業期間？
- 関連事業、施策との総合性、相乗効果？

# 【ビジョン4】

## 景観形成の仕掛けをくみ合わせる考 え方

